

TAISHO UNIVERSITY

Curriculum Guide 2016



地域創生学部

大正大学履修要項 2016

履修要項2016

読むガイド

履修要項

「履修要項2016」は2016年度入学生を対象としたものです。
地域創生学部は新設のため、必要に応じて見直しを行う場合があります。その場合はその都度知らせます。

大正大学ポータルシステム【T-Po】 <https://t-po.tais.ac.jp/>

大正大学ポータルシステム【T-Po】は、インターネットが使える環境があれば、自宅や学内のパソコン教室などから時間と場所を問わず各種サービスを利用することができますWebの仕組みを利用したシステムです。

休講情報や履修に関する事項、時間割の変更等、学生に対する伝達事項がT-Poに掲示情報としてアップされます。こまめにT-Poを確認するようにしてください。

掲示情報を確認しなかったことを理由に、伝達事項に対する責任を免れることはできません。
電話やメールによる問い合わせは受け付けていません。

■ガイダンス	1
ガイダンスの種類／T-Po掲示	
■授業科目	2
授業科目の構成	
■授業	3 - 6
クオーター／授業時間／単位について／単位の認定 制限単位／単位認定の時期／休講・補講／欠席について 欠席事由証明について／緊急時における授業の取り扱い	
■履修登録	7
履修登録の方法／履修登録の注意事項／履修科目的修正	
■試験	8 - 9
定期試験のシステムと成績通知表交付／ 試験日の変更／試験の心得／不正行為／ レポート提出について	
■評価	10 - 11
G P A(学業平均値)制度について／ 成績評価基準について アベレージの評価法／評価への疑問等	
■進級	12
進級について	
■卒業／卒業論文	12
卒業論文・卒業研究登録資格／卒業・学位授与／ D P／科目一覧	
■地域創生を実現する4つの人材力	13
地域創生を実現する4つの人材力／D P	
■別表	14 - 15

ガイダンス GUIDANCE

ガイダンス

ガイダンスの種類

必ず出席してください

- 新入生ガイダンス（所属学科の教員）
- 学科別ガイダンス（所属学科の教員）
- 諸資格ガイダンス（事務局・担当教員）

等があり、事務局が行うものと所属学科の教員が説明するものがあります。
ガイダンスを充実したものにするためにも、履修要項等を熟読し、理解しておくことが大切です。

ガイダンスには必ず出席して、確認漏れのないようにしてください。

※ ガイダンスには、送付された資料を必ず持参してください。

※ ガイダンスの日程は、「ガイダンス資料」を参照してください。

T-Po掲示

毎日確認してください

休講情報や履修に關すること、時間割の変更等、学生に対する伝達事項はT-Poに掲示情報としてアップされます。

こまめにT-Poを確認するようにしてください。

掲示情報を確認しなかったことを理由に、伝達事項に対する責任を免れることはできません。

電話やメールによる問い合わせは受け付けていません。

なおT-PoのID、パスワードについては教育開発推進センター7号館2Fへお問い合わせください。

授業科目

授業科目の構成・種類

※ シラバスはT-Po上で公開します。
<https://t-po.tais.ac.jp/>

授業科目の構成

		1年次	2年次	3年次	4年次
基盤教育	社会人基礎力の育成 地域創生の基礎知識修得	問題解決力の育成	企画構想力の育成	実践力の育成 (育成能力の統合と実践)	
基盤・専門 融合教育	外国語表現、日本語表現、データ分析、 セルフマネジメント ⇒ 社会人基礎力の修得	学問基盤科目群 18単位	教養科目群 20単位	人文学系科目(共生論、仏教学、歴史、倫理学等)、社会科学系科目(社会学、法律学、政治学等) 自然科学系科目(環境学、生物多様性概論等) ⇒ 視野の拡大と専門科目の学びを深める基盤	
専門教育	経済学の基礎 ⇒ 経済学的思考により現実の地域課題を理解する	地域創生理論科目群 47単位 ミクロ経済学、マクロ経済学、地域経済学、経済政策論、日本経済論等 地域政策論、自治体経営論、政策過程論、地域教育活動論等	地域創生実践科目群 33単位 地域経渓学ゼミナールⅠ 地域経渓学ゼミナールⅡ 地域創生学ゼミナールⅠ 地域創生学ゼミナールⅡ コミュニティリーダーシップⅠ コミュニティリーダーシップⅡ コミュニティリーダーシップⅢ 地域実習Ⅰ 地域実習Ⅱ 地域実習Ⅲ ⇒ 実習を通じて地域に根差した知識・技術を体験する	卒業研究 6単位	

授業

授業

3

授業について

科目的履修方法は、すべて学則に定められています。学生のみなさんは、別途配布する履修モデルを参考に履修計画を立て、卒業に必要な単位を修得しなければなりません。

クオーター

1年間の学修期間を4つの学期に区分する方法です

※ 年間日程については、「ガイダンス資料」を確認してください。

授業時間

授業時間について

1回の授業時間は原則として90分としています。授業時間帯は以下のとおりです。

授業時間帯	
1 時限	9:10～10:40
2 時限	10:50～12:20
お昼休み	12:20～13:10
3 時限	13:10～14:40
4 時限	14:50～16:20
5 時限	16:30～18:00

※ 授業は、原則として1時限から5時限の間で開講します。

単位について

科目によって単位数が異なります

授業科目の単位数は、学則に定められています。単位とは、授業科目の学習のための時間量のことです。この単位の算出方法は、その授業の種類・形態によって異なり、教室内での授業の他に、教室外での事前・事後学習の時間も含めて成り立っています。（1単位の基準は45時間の学修を必要とすることが前提となります。）

本学の場合、原則として以下の授業時間数をもってそれぞれの単位を定めています。

※ 講義・演習

- ① 毎週2回90分授業×2)×8週→2単位
- ② 每週1回90分授業) ×8週→1単位

単位の認定

単位認定の第一条件は履修登録です

科目を履修し、以下の条件を満たせば所定の単位が認定されます。

- (a) 履修登録・履修確認が行われていること。
- (b) 授業への出席。
- (c) その科目的学習の評価(試験・レポート・平常点)が合格点に達していること。

制限単位

学生のみなさんが学修に集中できるよう、各学年・クオーターごとに履修できる単位数に上限を定めています。なお、1週間の平均受講科目は10科目（1科目を1単位とした場合）になります。4年間で計画的に履修してください。

年間制限単位数

クオーター	第1クオーター	第2クオーター	第3クオーター	第4クオーター
制限単位	14単位	14単位	※6単位	14単位

※ 第3クオーターは地域実習(6単位)のみ開講

単位認定の時期

第1クオーター・第2クオーター開講科目 → 9月15日（予定）

第3クオーター・第4クオーター開講科目 → 3月15日（予定）

休講・補講

休講情報は「T-Poの休講情報一覧」で確認してください。
補講情報は「T-Poの補講情報一覧」で確認してください。

- ※ 授業担当教員が公務・病気等で授業ができなくなった場合は、休講となります。休講は担当教員から連絡がありしだい、T-Po・休講情報にアップします。ただし、担当教員から届出がなかった場合は、掲載されません。また、急病等事前に告知できないときは、授業当日の掲載になる場合があります。なお、休講等に関する電話での問い合わせは受け付けておりません。
- ※ 諸般の事情により休講が重なり、授業が予定どおりに進行できなくなった場合は、授業開講期間の土曜日や休講の翌週等の授業日の別の時限に補講が行われることがあります。いずれの場合も、T-Poで確認をしてください。

<https://t-po.tais.ac.jp/> (パソコン専用)

<https://t-po.tais.ac.jp/s/> (スマートフォン専用)



欠席について

単位認定を受けるには、授業に毎回出席することが原則です。（大正大学履修規程第17条）

欠席事由証明について

欠席回数が成績評価に関係する場合があることから、以下に掲げる事由による欠席については、大学がその事由を証明することができます。ただし、その取り扱いについては、担当教員にゆだねられているので、担当教員の指示にしたがってください。

内 容	担当部署
各種資格課程の学外学習および僧階に関する各宗派加行・研修	教務部
担当教員が引率・指導する大学公認の学外学習、調査、見学、実技および研修旅行	
忌引き等(大学で定めた日数)	
大学が認めた課外活動	
骨髄バンク等移植に伴うドナー登録および検査	学生部
学校保健安全法で定められている感染症による出席停止	
裁判員制度で裁判員として出廷する場合	

それぞれの事由について審議のうえ、教務部長、学生部長が証明します。

証明書は、学生自身が当該授業担当教員に直接提出してください。原則として、欠席の1週間前後を提出期限とします。ただし、試験の欠席については、8頁を参照してください。

※ 詳細については各担当部署の窓口に相談してください。

緊急時における授業の取り扱い

交通機関が運行中止となった場合

交通機関のストライキ等により公共交通機関が運行を中止した場合の授業(試験を含む)の取り扱いは次のとおりとします。

- ①首都圏JR
 - ②首都圏大手私鉄各社
 - ③東京メトロ
 - ④都営地下鉄
- <路線バスは除きます>

①・②・③・④のうち3社以上が全面的に運行中止の場合

- | | |
|--------------------------|------------|
| 午前6時現在において運行が再開されていない場合 | → 1・2限休講 |
| 午前10時現在において運行が再開されていない場合 | → 3・4限休講 |
| 午後2時現在において運行が再開されていない場合 | → 5・6・7限休講 |

個別交通機関の遅延および不通の場合

遅延証明書または、不通証明書の交付を駅で受けてください。 *ただし、路線バスは除きます。

*交通機関の遅れが事前に予測される場合は、早めに家を出るなどの自衛手段をとってください。特に路線バスは、少しの気象状況の変化で大幅な遅れが出る場合があります。一般的に、バス会社は遅延証明書などの証明書類の発行を行いません。

なお、取り扱いについて不明な場合は、直接地域創生学部事務室窓口へお問い合わせください(午前9時以降)。

気象庁により『暴風警報』『大雪警報』が発令された場合

気象庁により『暴風警報』『大雪警報』が東京23区東部もしくは東京23区西部に発令された場合における授業(試験を含む)の取り扱いは次のとおりとします。

午前6時の時点で『暴風警報』『大雪警報』が発令中の場合	→ 1・2限休講
午前10時の時点で『暴風警報』『大雪警報』が発令中の場合	→ 3・4限休講
午後2時の時点で『暴風警報』『大雪警報』が発令中の場合	→ 5・(6・7)限休講

※授業中に気象条件の悪化が認められた場合は、学内放送・掲示等でお知らせいたしますのでその指示にしたがってください。

※台風や大雪など、気象状況が時間の経過とともに悪化することが十分予測される場合、全学休講の措置を行うことがあります。

確認方法について

気象の警報は、気象庁ホームページおよびテレビ、ラジオ等で確認してください。
休講情報は、T-Poで確認してください。

大規模地震の警戒宣言が発令された場合

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予測されるときに、気象庁所管の「地震防災対策強化地域判定会」が招集され、地震発生の恐れが高いか低いかを判定し、状況によって大規模地震対策特別措置法(大震法)に基づく『警戒宣言』が発令されます。

「判定会」が招集された場合の授業(試験を含む)の取り扱いは次のとおりとします。

「地震防災対策強化地域判定会」が招集されたことをテレビ・ラジオ等にて確認できた時点で休講とします。

その際には次のように行動してください。

- 通学途中、または帰宅途中のときは、ただちに帰宅するなど適切な行動をとる。
- 在校中のときは、大学からの連絡・指示にしたがう。

午前6時現在において警戒宣言解除および判定会が解散されていない場合 → 1・2限休講

午前10時現在において警戒宣言解除および判定会が解散されていない場合 → 3・4・5・(6・7)限休講

履修登録

履修登録について

履修登録とは、そのクオーターに履修しようとする科目を登録する手続きのことです。

履修登録の方法

2016年度の履修登録は用紙で登録手続きをします。

履修登録の注意事項

1. 代理登録……他人の登録を代行することはできません。
2. 重複登録……同一時間帯に複数の科目を登録することはできません。
3. 二重登録……既に単位を修得した科目を再度履修することはできません。
同じクオーターで同一科目名のものは、登録することはできません。
4. 制限単位超過……定められた制限単位以上の単位数を登録することはできません。
5. 履修年次……各科目的年次指定にしたがってください。
6. 先修制科目……履修順序の原則は必ず守ってください。

- ※ 履修登録日については、ガイダンス資料等で確認し、定められた日時に登録を完了してください。
- ※ 同じ科目名でも、担当教員(クラス)が複数ある場合があります。履修するべきクラスを確認のうえ登録してください。
- ※ 教室の収容定員等の関係で、受講人数を制限する場合があります。
- ※ やむを得ない事情で定められた日時に履修登録ができない場合は、事前に地域創生学部事務室へ
- ※ 届け出てください。届け出のない場合は登録を放棄したものとみなします。
大学の規則に反して登録した場合は、登録の全てが無効になります。

履修科目の修正

履修科目の追加・削除をしたい場合は、定められた期間に修正登録を行ってください。
正しく登録できていない(時間割に反映していない)科目は、単位認定されません。
また、履修する意志のない科目を削除せず、授業に出席しないでいると「Z」評価となり、GPAに直接影響します。

- 以下の場合は、印刷した登録完了時の時間割と学生証を持参のうえ、指定日時に地域創生学部事務室に申し出てください。

・登録完了した科目が時間割に反映されていない場合

※ 理由なく登録科目の変更・追加・削除はできません。

履修登録はすべて自己の責任において行うものです。
登録間違いなどがないよう、十分注意してください。

試験

試験

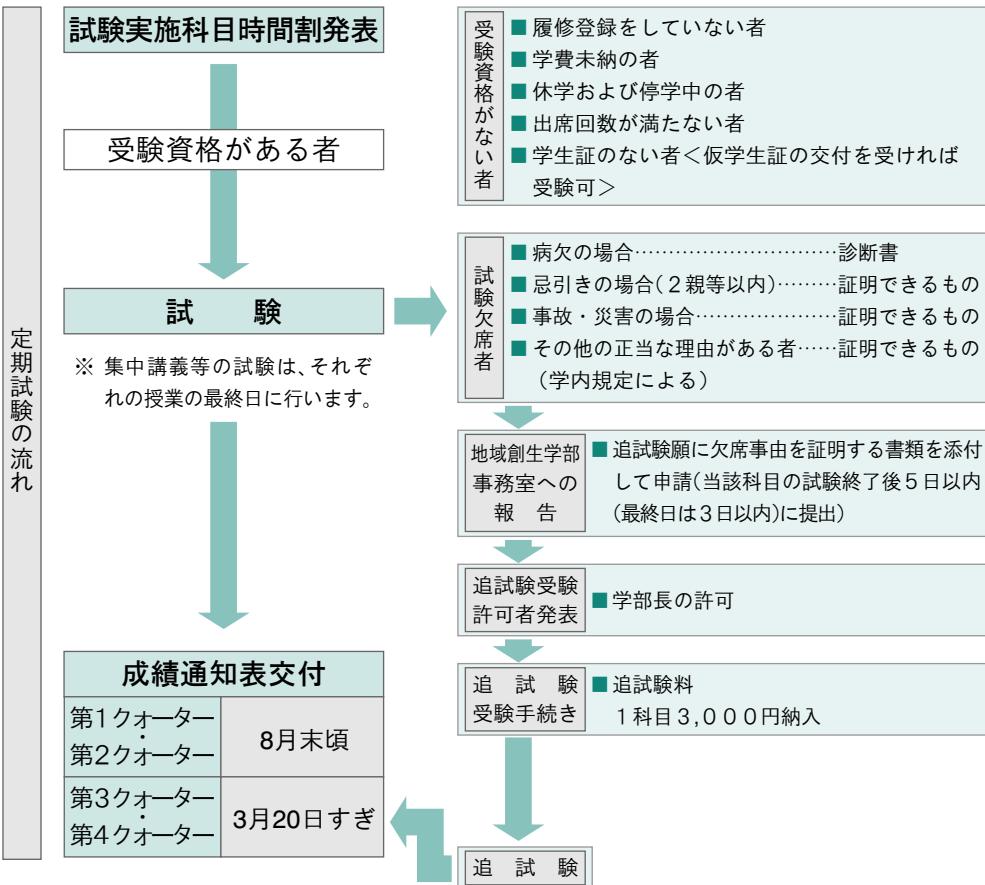
8

試験の種類

履修科目的単位は、原則として試験の成績評価によって認定されます。試験の種類は、次の4種類となっています。

定期試験	…授業最終週の授業時間内で試験を実施します。
追試験	…やむを得ない理由により定期試験に出席できなかった場合に行います。(所定の手続きがあります。)
臨時試験	…当該科目的担当教員が、授業内容の区切りなどで必要と認めたときに行う場合があります。
再試験	…4年生最終クオーターの科目に限って行う場合があります。

定期試験のシステムと成績通知表交付



試験日の変更

交通機関のストライキ等による運行中止および台風等災害発生により試験を実施できなかった場合、その試験は原則として各クオーター最終日の翌日に行います。

試験の心得

- ① 学生証は必ず顔写真が見えるようにして、机上に置いてください。
- ② 学生証を忘れた場合は、事前に学生課窓口で仮学生証の交付を受けてください（有料500円）。
- ③ 試験開始から20分以上遅刻すると受験できません。
- ④ 試験開始後30分までは退室できません。
- ⑤ 答案用紙が配布され、試験監督より指示がありしだい、学籍番号・氏名等所定の事項を記入してから試験を開始してください（試験場から答案用紙を持ち出さないでください）。
- ⑥ 携帯電話等の電源は必ず切ってください。
また、机上には指示された物以外は置くことはできません。
- ⑦ 試験への持込みは、許可された物以外は一切認めません。
また、「ノート持込み可」の場合のノートとは自筆のノートのみとし、コピーしたものは一切認めません。

不正行為

<退場>
<処分>

試験監督の注意・指示にしたがわない場合は、ただちに試験場から退場させ、その試験は無効とします。不正行為があった場合は、学部長に報告したのち、教授会の議を経て学則第61・62条（謹責、謹慎、停学、退学）により処分されます。

レポート提出について

レポートの提出は、科目担当教員に直接提出してください。事務局は一切対応いたしません。レポート提出の指示があった場合は、必ず提出方法を確認し、指定期日に遅れないようにしてください。

① 郵送の場合：事前に宛先を担当教員に確認し、封筒に「レポート在中」と朱書きして「配達証明付」で送付してください。
(地域創生学部事務室では、担当教員の住所・電話番号等に関する問い合わせには一切お答えできません。)

② 直接提出する場合：事前に提出場所を確認し、指定期間内に提出してください。

③ T-Poで提出する場合：「T-Po利用マニュアル」を参照の上、提出してください。

なお、レポートの提出形式は特に定めていないので、担当教員の指示にしたがってください。

評
価

学業の評価

学業の評価は担当教員が行うものであり、授業への取り組み・試験・レポート等を総合的に勘案して評価されます。成績の評価は、以下のとおりA AからC、およびTを合格、D・Zは不合格とします。

評価	判定
A A	
A ⁺	
A	
A ⁻	
B ⁺	
B	
B ⁻	
C ⁺	
C	
D	不合格
Z	
T	認定 [AA~Cを除く]

GPA(学業平均値)制度について

授業科目を履修し、試験に合格すれば、前述のように一定の単位と評価が認定されます。本学では平成11年度からG P A = グレード・ポイント・アベレージ(学業平均値)による学業評価システムを併用しています。

これはアメリカで一般的に採用されているG P Aの算出方法を基本としており、日本でこの制度を導入している他大学の基準とほぼ変わらないものとなっています。これによって、今まで同一学科内あるいは同一グループの成績比較しかできなかつたものが、他学部・学科の学生との比較が可能となります。

この制度導入の理由は、学生の学期(クオーター)または学年等、一定期間の履修と学習の状況を掌握することによって、個人別に適切できめ細やかな履修・学習アドバイスを可能とし、成績上位者を表彰する客観的なデータとして利用するためです。

具体的には、それぞれの評価に一定のポイントを設定し、不合格科目を含めて履修科目のアベレージを算出します。その方法は、以下の表のとおりです。

成績評価基準について

評価	ポイント	判定	基 準
A A	4.0点	合 格 (最優秀)	A A 極めて優秀な成績
A ⁺	3.5点		
A	3.0点	合 格 (優秀)	A 優秀な成績
A ⁻	2.7点		
B ⁺	2.4点		
B	2.0点	合 格 (良)	B 受講生の中では平均的な成績
B ⁻	1.7点		
C ⁺	1.4点		
C	1.0点	合 格 (可)	C 平均より劣るが、合格に値する成績
D	0.0点	不 合格 (不可)	D 合格に達しない
Z	0.0点	不 合格 (否)	Z 評価不能
T	—	本学の授業科目における合格判定(上記AA~Cを除く) および他大学等による単位認定	

※ Z評価はレポート未提出者、試験未受験者等を示します。

※ 成績通知表には、評価欄の評語を使用します。また、成績証明書には、判定欄の評語を使用します(成績証明書には、合格科目のみ記載されます)。

アベレージの評価法

前掲の基準で算出されたアベレージの値によって以下のように評価します。

G P A 値	総合評価
3.5 ~ 4.0	最優秀
3.2 ~ 3.4	優
1.6 ~ 3.1	良
1.0 ~ 1.5	可

※ G P A 値：全履修科目を対象とし、小数点第3位以下を切り捨てる（不合格科目、指定期間内に修正手続きを行わなかった誤登録科目を含みます）。

※ 履修登録後に、登録科目を取り消したい場合は、当該学期開始2週間以内に所定の手続きを行わなければなりません（詳しい日程についてはガイダンス資料等を参照すること）。登録をしたまま、授業に出席しないでいると「Z」評価となり、G P Aに直接影響します。

※ 成績証明書にG P A値を記載します。その場合、原則として本学のG P A制度の基準を明記します。

[G P Aの算出例]

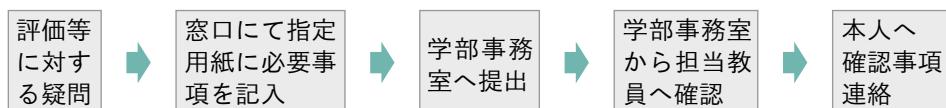
2単位の科目を3科目履修し、成績が<AA・A-・D>評価の場合のG P Aと判定

$$\begin{aligned} \text{G P A} &= \frac{\text{AA}(4.0) \times \text{単位数}(2) + \text{A-}(2.7) \times \text{単位数}(2) + \text{D}(0) \times \text{単位数}(2)}{\text{登録総単位数}(\text{不合格の科目の単位数も分母に加算})} \\ &= \frac{4.0 \times 2 + 2.7 \times 2 + 0 \times 2}{6} = 2.23 \quad [\text{判定: 良}] \end{aligned}$$

評価への疑問等

配付された前学期の成績表の評価が、不合格（D）（Z）となっている科目に対して疑問等がある場合は、指定期間に地域創生学部事務室へ確認申請してください。

※ 日程はT-Poにてお知らせします。



ただし、以下の場合は成績表に関する疑義および質問を一切受け付けないので注意してください。

- ◎ 成績表を受け取っていたにもかかわらず、指定期間を過ぎた場合
- ◎ 地域創生学部事務室を通さずに、疑問点を直接教員に問い合わせ、その結果を地域創生学部事務室に届け出た場合
- ◎ 本人の都合で成績表を指定期日に受け取らなかつたため、指定期間が終了してしまった場合
- ◎ 出席回数が、不足している場合
- ◎ 成績表・時間割を持参していない場合

進 級

| 進級について

次の学年（1年生から2年生、2年生から3年生、3年生から4年生）へ進級するためには、当該学年に1年（4学期）以上在学し、かつ以下の基準を満たさなければなりません。この基準に達しない場合には、留年となります。

1年→2年

- ・総修得単位数が20単位以上であること。

2年→3年

- ・総修得単位数が62単位以上であること。

3年→4年

- ・総修得単位数が90単位以上であること。

※ 大正大学履修規程第27条により

- ・1・2・3年次に進級基準に達することなく、同学年に2か年（8クオーター）在学し、進級できない場合は退学となります。
- ・直近3学期連続して各学期の履修科目のGPA値が1.0未満の場合は退学となります。
ただし、4年生は除く。

卒 業
卒業論文

| 卒業／卒業論文・卒業研究

卒業論文・卒業研究
登録資格

- 4年次に進級していること。

卒業・学位授与

本学に4年以上在学し、所定の授業科目（卒業要件を参照）124単位以上（卒業論文・卒業研究を含む）を修得した者は卒業となり、学士（経済学）の学位を授与します。

地域創生を実現する4つの人材力

地域の事業団体やNPOで活躍アイデアをまとめ推進する「コーディネーター」

地域社会の諸主体（産官学民）や多様な分野・専門家を繋いで、地域を取り巻く課題やニーズに対応する計画や連携・共同活動を創出する人材。

地方銀行や信用金庫で活躍経済学を課題解決に実践「エコノミスト」

地域経済の動きや問題を調査・分析・予測し、経済活動に関連する課題の抽出、改善案の低減・発信、施策推進の支援・関与ができる人材。

地域での起業や中小企業で活躍地域で新事業を創出する「アントレプレナー」

地域課題やニーズを適切に捉えながら地域の特徴ある資源（地域産業や観光資源等）を活用して事業創出を行える人材。

地方自治体の公務員として活躍地域に役立つ組織づくりを推進「オーガナイザー」

地域社会の様々な人や組織・事業体を繋いで効果的な組織構築と管理運営ができる人材。

ディプロマ・ポリシー（DP）

DP1 知識

地域社会が直面している再生・創造に関する諸問題を深く考えるための知識・教養を身につけている。

理解

地域創生に必要な経済学・経営学・社会学等の諸分野の基本的学問内容及び方法を理解している。

DP2 思考・判断

自らがテーマとした地域創生や地域活性化の方策について、経済・経営学的な思考を基礎として、人文・社会・自然科学等の関連学問領域の研究方法を用いて考察することができる。

DP3 発見

経済・経営学の知識や手法を用いて、地域の潜在的価値や能力、課題を発見できる。

DP4 関心

学問領域で学んだ知識を地域創生・地域振興のための実践力へと高めることができる。

意欲

地域社会において地域振興のリーダーとして自身の役割を自覚することができる。

学問領域で学んだ知識を持って、地域創生や地域活性化のニーズに応える意欲を身につけている。

DP5 態度

地域創生に向けて、他者との協調・協力によって共に目標を達成しようとする態度が育成されている。

DP6 技能・表現

他者の意見を取り入れ、自らの考えを口頭や文章によって的確に表現できる技能を身につけている。

別 表

● 基盤教育

	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
学問基盤科目群	外国語表現 I - I (一般英語 I)	1	1	12科目12単位必修
	外国語表現 I - II (一般英語 II)	1	1	
	外国語表現 I - III (一般英語 III)	1	1	
	外国語表現 II - I (コミュニケーション英語 I)	2	1	
	外国語表現 II - II (コミュニケーション英語 II)	2	1	
	外国語表現 II - III (コミュニケーション英語 III)	2	1	
	日本語表現 I	1	1	
	日本語表現 II	1	1	
	日本語表現 III	1	1	
	データ分析 I (社会調査方法論)	1	1	
	データ分析 II (データ分析法)	1	1	
	データ分析 III (統計学)	1	1	
科目群 実践基盤	セルフマネジメント I - I	1	1	6科目 6 単位必修
	セルフマネジメント I - II	1	1	
	セルフマネジメント I - III	1	1	
	セルフマネジメント II - I	2	1	
	セルフマネジメント II - II	2	1	
	セルフマネジメント II - III	2	1	
人文学系科目	共生論 I	1 2	1	2科目 2 単位必修
	共生論 II	1 2	1	
	仏教学 I	1 2	1	
	仏教学 II	2 3	1	
	異文化コミュニケーション論 I	1 2	1	
	異文化コミュニケーション論 II	1 2	1	
	哲学 I	1 2	1	
	哲学 II	1 2	1	
	倫理学 I	1 2	1	
	倫理学 II	2 3	1	
	歴史 I (日本史)	1 2	1	
	歴史 II (西洋史)	1 2	1	
	民俗学 I	1 2	1	
	民俗学 II	1 2	1	
	文学 I	3 4	1	
	文学 II	3 4	1	
	日本の言葉と生活 I	2 3	1	
教養科目群	日本の言葉と生活 II	3 4	1	38科目から 18単位以上必修
	東洋の言葉と生活 I	3 4	1	
	東洋の言葉と生活 II	3 4	1	
	西洋の言葉と生活 I	3 4	1	
	西洋の言葉と生活 II	3 4	1	
	社会学 I	1 2	1	
	社会学 II	1 2	1	
	教育学 I	1 2	1	
	教育学 II	2 3	1	
	法律学 I	1 2	1	
	法律学 II	1 2	1	
	政治学 I	2 3	1	
	政治学 II	3 4	1	
	コミュニケーション概論 I	3 4	1	
	コミュニケーション概論 II	3 4	1	
	情報論・メディア学 I	3 4	1	
	情報論・メディア学 II	3 4	1	
社会科学系科目	環境学 I	1 2	1	
	環境学 II	1 2	1	
	生物多様性概論 I	1 2	1	
	生物多様性概論 II	2 3	1	
	自然科学概論 I	3 4	1	
	自然科学概論 II	3 4	1	
自然科学系科目	環境学 I	1 2	1	
	環境学 II	1 2	1	
	生物多様性概論 I	1 2	1	
	生物多様性概論 II	2 3	1	
	自然科学概論 I	3 4	1	
	自然科学概論 II	3 4	1	

別 表

専門教育

地域創生学部

15

地域創生理論科目群

地域創生実践科目群

ゼミナール科目

実習科目

授業科目的名称	履修年次	単位	備考
経済学の基礎Ⅰ	1 2	1	
経済学の基礎Ⅱ	1 2	1	
経済学の基礎Ⅲ	1 2	1	
ミクロ経済学	2	2	
マクロ経済学	2	2	
地域経済学	2 3	2	
経済政策論	2 3 4	2	
日本経済論	2 3 4	2	
マーケティング論	2 3 4	2	
地域創生概論	2	2	
地域回帰論Ⅰ(基礎論)	2	2	
地域回帰論Ⅱ(実践論)	2	2	
財政学	2 3 4	2	
金融論	2 3 4	2	
国際経済学	2 3 4	2	
比較経済論	2 3 4	2	
労働経済学	2 3 4	2	
環境経済学	2 3 4	2	
企業経済学	2 3 4	2	
応用ゲーム理論	2 3 4	2	
産業集積論	2 3 4	2	
生活政策論	2 3 4	2	
自治体経営論	2 3 4	2	
地域政策論	2 3 4	2	
中山間地論	2 3 4	2	
地方財政論	2 3 4	2	
地域分析法	2 3 4	2	
地域福祉論	2 3 4	2	
地域起業論	2 3 4	2	
地域企業経営戦略論	2 3 4	2	
地域メディア論	2 3 4	2	
政策過程論	2 3 4	2	
人的資源管理論	2 3 4	2	
地域生産性向上論	2 3 4	2	
経営組織論	2 3 4	2	
NPO・市民活動論	2 3 4	2	
地域コミュニティ論	2 3 4	2	
地域合意形成論	2 3 4	2	
地域教育政策論	2 3 4	2	
地域教育活動論	2 3 4	2	
地域環境論	2 3 4	2	
地域経済学ゼミナールⅠ-Ⅰ	1	1	
地域経済学ゼミナールⅠ-Ⅱ	1	1	
地域経済学ゼミナールⅠ-Ⅲ	1	1	
地域経済学ゼミナールⅡ-Ⅰ	2	1	
地域経済学ゼミナールⅡ-Ⅱ	2	1	
地域経済学ゼミナールⅡ-Ⅲ	2	1	
地域創生学ゼミナールⅠ-Ⅰ	3	1	
地域創生学ゼミナールⅠ-Ⅱ	3	1	
地域創生学ゼミナールⅠ-Ⅲ	3	1	
地域創生学ゼミナールⅡ-Ⅰ	4	1	
地域創生学ゼミナールⅡ-Ⅱ	4	1	
地域創生学ゼミナールⅡ-Ⅲ	4	1	
コミュニケーションリーダーシップⅠ	1	1	
コミュニケーションリーダーシップⅡ	2	1	
コミュニケーションリーダーシップⅢ	3	1	
地域実習Ⅰ	1	6	
地域実習Ⅱ	2	6	
地域実習Ⅲ	3	6	
卒業研究	4	6	6単位必修

12科目21単位必修

29科目から
26単位以上必修

18科目33単位必修

卒業論文

あとがきに代えて

本学は大正15年に設立され、数々の分野で実績を残してきました。新しい世紀を迎えたが、本学設立の精神は、時代が移り変わってどんな社会状況となっても永久に不動のものと確信しています。

ここに初代学長の建学のことばの抜粋を揚げ、その意図するところを学生のみなさんとともに探究していきたいと思います。

建学のことばより

新たに生れ出た大正大学には宗教的敬虔の心持に、大乗仏教的精神を力強く發揮させねばならぬと考えます。教授・講師は申すまでもなく、学生も知識否、智慧の熱愛者であり、謙遜真摯の態度を以て真理を求めて已まざるものであってほしい。道徳と道理の前には極めて従順であると共に、悪と非理に対しても一歩も屈せざる勇気が溢れることを望みます。必ずしも神秘とは言わない不思議とは申しませんが、何となく聖く儼かな靈的な雰囲気が学内に漂って居って、来って此学園に学ぶ者を薰化し感化するものがあればと存じます。近世世界の文明國を通して自我の覚醒を見んとするは貴ぶべきことありますが、自己個人の小なる権利、それは仏祖が極力呵責し給いし、我欲我執を滔々として主張する風ある間に立ちて、あくまで利他を念として忘れないようにありたいと存じます。

率直に自己の過失罪悪を懺悔すると共に、本来具する仏性を開顯して、人格の完成に猛然と精進することを望んでおります。少なくとも善を贊美する優しい心と悪に近づかない猛き気を持ちたいと存じます。かかる願望を一步一步満足し行く所に本大学存在の意義が明らかにされるものと信じます。

大正15年11月5日 創立記念式典にて

初代学長 澤柳 政太郎

2016年度入学者用履修要項

平成28年4月1日発行

編 集：大正大学 地域創生学部事務室

TEL:03-5934-3079



学籍番号	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____
氏名							